

会議名	第2回MINATOビジョン策定支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年2月13日（木曜日）午前9時30分から午前10時30分まで
開催場所	港区役所915会議室
委員	出席者5名 岡本 多喜子 委員長（明治学院大学名誉教授） 荒川 正行 副委員長（港区企画経営部長） 岡本 三彦 委員（東海大学政治経済学部教授） 小松 尚平 委員（一般社団法人デザインシップ理事） 中村 ゆかり 委員（港区芝浦港南地区総合支所協働推進課長）
事務局	企画経営部企画課長、企画担当係長、企画担当
会議次第	1 開会 2 第一次選考結果について 3 第二次選考について 4 閉会
配付資料	<配付資料> 資料1 MINATOビジョン策定支援業務委託事業候補者選考一次審査集計結果 資料2 第3回選考委員会進行スケジュール（案） 資料3 第二次審査の実施に関する留意事項（案） 資料4 第1回選考委員会会議議事録（案） 参考資料1 公募関係資料（公募要項・仕様書・選考基準・質問回答一覧） 参考資料2 第二次審査採点基準表 参考資料3 事業者提出資料（2事業者分）
会議の内容	
委員長	【1 開会】 MINATOビジョン策定支援業務委託第2回事業候補者選考委員会を開会する。 一次審査の採点結果を確認し、二次審査に進出する事業者を選考する。
事務局	（事務局から資料確認）
委員長	【2 第一次選考結果について】 応募があった2事業者について、二次審査に進む事業者を決定する。集計結果など、議題に係る資料について、事務局から説明をお願いする。
事務局	実績の業務内容は、行政計画の策定への活用が目的でない契約は対象外とし、計画策定にかかる業務を採点対象とした。

	<p>対象とする自治体は、①特別区②政令指定都市③島しょ部を除く東京都内の市町村④都道府県⑤中核市とした。</p> <p>また、個別計画については、タウンフォーラムのグループである7分野への対応力を評価するために、評価表記載の7分野に限るものとし、行政経営や分野横断の計画は対象外とした。</p> <p>業務従事予定者の実績についても、業務実績の定義は先ほどと同様とし、勤務年数や手持ち業務については、様式に記載された数値に基づき採点した。</p> <p>また、見積額についても事務局採点となっており、事業者が提出した見積書をもとに点数をつけた。</p> <p>「2 企画提案の評価」は、委員の皆様から採点していただいたものを、一覧表にしている。</p> <p>加点項目を含めた合計点は1315点であり、A事業者・B事業者ともに949点、得点率は72%であり、どちらも一次審査通過の基準である60%を超えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、審査に当たり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いします。</p>
<p>E委員</p>	<p>同点ということで、甲乙がつけがたい。</p> <p>A事業者について高得点を付けた点を述べる。</p> <p>課題の解決について、効果的な課題解決が提案されている。とりわけWell-Beingの視点を評価している。</p> <p>ワークショップの運営の点では、デジタルグラフィックやオンライン開催という手法に工夫が感じられる。2040年を見据えて、アウトプットとして、子ども・若者の意見を取り入れる視点、子どもに分かりやすいリーフレット作成など、港区が求めるものにマッチしている印象を受けた。</p> <p>B事業者について高得点を付けた点を述べる。</p> <p>一つ目がスケジュールの管理。様々な事業者の提案を見ると、資料上ではよくできていても、実現性に不安を感じる事業者が多い中で、B事業者については、リスク管理の点など、かなり具体的に触れられている。月次、週単位、日単位でどうするのか、また、何かあった時のサポート体制についても触れているため、安心して任せられるという印象を受けた。外国人住民の参加による更なる多文化共生社会の実現を提案している点も非常に評価できる。</p> <p>ワークショップの運営の中でフィールドワークを取り入れている点もおもしろい。参加している方も主体性を持って自分たちのまちをどうするのかについて考えるきっかけを与えることができる。A事業者と重なるが、デジタルグラフィックやオンライン開催の手法、子ども・若者の視点も非常に評価できる。</p>

<p>A委員</p>	<p>得点に若干の差はあるが、どちらの事業者もしっかり任せられる事業者という印象である。</p> <p>A事業者については、Well-Beingの部分で、イメージが先行しているため、破綻しないようにという分析は大変興味深い。ただ、その他の分析は港区に特化しておらず、都心区で共通するような情報が多いと感じたため、提案としては普通ではないかと思った。デジタルグラフィックのことはプレゼンテーションで聞いてみたいと思った。若い方がグラフィックデザインをやることは視点として良いと思うが、これまでの基本計画のタウンフォーラムや地区版計画で集まる方は、区政への高い高齢者が多い傾向にある。</p> <p>グラフィックデザインで場が和むと考えられる若い世代や、育児中の親であればマッチングすると思うが、メンバーとして高齢者が多い場合、デジタルグラフィックで場の雰囲気良くなるかどうかは、好き嫌いが分かれるのではないかと思った。子どもに分かりやすいリーフレットの作成も良い視点と思ったので、報告会以外での用途も聞いてみたい。全体として、都心区として、港区らしい独自性をもっとあっても良いのではないかと思った。</p> <p>B事業者については、様式記載のスケジュールが煩雑に感じられたが、人員体制や進行管理は詳細に設定されていたため、印象はよかった。分析においては、国の予測と港区の予測の他に、近隣区との比較を入れた点で独自性があり、評価した。ワークショップについては、フィールドワークは興味深いですが、若い方や育児中の方がワークショップでの宿題を持って帰って処理する場合にどうフォローをするのか聞いてみたい。グラフィッカーの使い方についても同様に考える。外国人向けのコンテンツについて提案があったのも評価できる。</p>
<p>C委員</p>	<p>A事業者とB事業者を比較して、全体的にA事業者に高いポイントを付けた。</p> <p>A事業者は、港区における課題の検討について、独特の評価指標を提示し、Well-Beingとの部分で新しい視点の提供があった。おそらく今回提案しているということは、他の独特の指標を持っている可能性もあるため、プレゼンテーションの時に聞いてみたい。</p> <p>B事業者は、一般的な点において、多くて優れているという印象だった。ワークショップの運営についても、A事業者の得点を高くした理由としては、フューチャーデザインというアドバンスな業務を提案しており、区民との対話や行政とどうすり合わせていくかは可視化としても重要な視点である。様式上はワークショップの形式として、A事業者が優位に見えるが、プレゼンテーションの際にB事業者の考えも聞いてみたい。</p> <p>コンテンツ化については、A事業者は子ども向けに寄せすぎている反面、デ</p>

<p>D委員</p>	<p>デザイン性が良かったため、コンテンツ化とイメージ図についてはA事業者のポイントを上げた。B事業者はバランス良く作成している。最後に、イメージ図のデザイン性はベンチマークも含めてA事業者の方が具体的に提案をしていると感じた。</p> <p>全体的に高得点となり、結果的にA事業者もB事業者もほとんど点数は変わらなかった。</p> <p>A事業者の配置計画の実行性について、企画書は見やすいが、配置計画やスケジュールがより具体的に書かれていた方がよかったと思う。港区を取り巻く社会状況の分析については、Well-Beingを向上させるという解決策の提案は良いと思うが、解決策が理想的・観念的・抽象的な傾向にあると感じた。区民参画については、これまでの実績等も述べられており、成果発表についても具体的で魅力的であるという評価をした。港区の将来像のアウトプットについては、子ども・若者を意識している点は良いと思う一方で、港区の場合は多様な区民もいるため、そのような方も対象にした提案を出された方がよかったのではないかと。</p> <p>B事業者の配置計画の実行性については、非常に良い印象を受けるが、スケジュールが複雑で把握しにくい。ただ、企画書を読むと本業務に対する意欲が伝わってくるため、その点は評価できる。港区を取り巻く社会状況の分析については、分析の分野は限定的であるが、具体的な解決策を提示している。区民参画に係る提案についても具体的で、これまでの実績を強調しており、この点が強みであるという印象を受けた。港区の将来像のアウトプットについては、子ども向けだけでなく、外国人へのアウトプットも示されており、様々な区民を広く意識したものになっている点を評価した。</p>
<p>B委員</p>	<p>A事業者については、港区の業務を多く受注しており、既視感はあるが、それだけ港区のことはよく理解しており、業務も進めやすいのではないかとと思う。ただ、直接業務に関わる方が6人であることは、少ないという印象を受けた。多様な資格を持った方がいるため、資格がどのように本業務に作用するのかをお聞きしたいと思った。様式7について、国があり、港区があり、その中に区民がいるという流れを施策に落とし込んでいる点はとても良いと思ったが、全体像は掴みにくいと感じた。どのような区民を対象として想定しているのかが見えづらいと感じた。ポストSDGsについても、東京都の進捗状況はわかったが、肝心の港区のデータが読み取れなかったことが気になった。視点としては良い点が多くあったが、では港区はどのようなのか、という部分が抜け落ちてしまっていた。区民参画について、牧之原方式という新しい方式を採用していることは評価できるが、Z世代や若者にこだわりすぎている印象を受けた、面白い提案であったが、区民参画組織に参加する高</p>

	<p> 齢者がうまく対応できるか、という点は心配がある。将来計画であるため、現時点の世代にこだわらず、その子供たちが20年後、30年後に港区に住み続けるとして、どういう港区になってほしいのかという視点が少し抜けているように感じた。B事業者に、高齢者や障害者、引きこもりの方といった社会的弱者と呼ばれる方々の視点がある一方で、A事業者はその視点が弱い。 </p> <p> B事業者は、その点は評価した。B事業者の担当は12人と多いが、A事業者に様々な資格を持った方いる一方で、B事業者はコンサルタントが多い。港区が作成するビジョンに、コンサルタントがどう関わるのかは疑問に思った。担当に元行政職員が多いが、本業務にどのような効果があるのか気になった。また、会議の回数が具体的に提案されていることは実効性があって良い。様式7は、子どもと高齢者が中心で、障害者や引きこもりの区民などの配慮が欠けている印象を受けた。様式8については、ワークショップでのフィールドワークの導入など、新しいアイデアは評価できる。YouTube配信は、若者も高齢者も関心があると思う。コンテンツの多様性は、子ども向け・外国人向けの報告書の提示、また点字や音声での発信を検討するという点は、好感が持てた。 </p> <p> 各委員の意見を聞いても、甲乙つけがたい事業者であったのだなと印象である。 </p> <p> 行政は、子ども・子育てだけを抜き出して政策を考えるのではなく、港区全体の中で子どもをどう位置付けるかを考えながら、ビジョンを作成しなければならない。そのような中で、A事業者はあまりに子ども部分に特化しすぎていると印象を受けた。B事業者の方が、外国人や点字・音声などの障害を持った方にも配慮があるように見受けられる。子どもはいずれ大人になり、大人は高齢者になる。B事業者がこのような視点を持っているなら、さらに良いと思う。 </p>
委員長	各委員からの講評を踏まえ、質問などあればお願いしたい。
B委員	まず、私から一点お聞きしたいのだが、受注事業者の担当職員がコンサルタントだけというのはどうなのか。
C委員	私もその点は気になった。B事業者が受注する場合は、優秀なデザイン事業者が入る前提であるという印象を受ける。ただ、様式に記載がないだけで、専門的な担当者もおそらくいると思う。
B委員	この点は、ヒアリングで質問をした方がよろしいかと考えるがいかがか。

C委員	同意する。
E委員	今回の応募で、問い合わせをしてきた事業者は何者ほどあったか。
事務局	5者程度から問い合わせがあり、結果2社から応募があった。応募申請をしなかった一部の事業者からは、大規模な業務であるため、体制的に余裕がないとの意見があった。
B委員	参加した2事業者も、人の配置などは大変かもしれない。タイトなスケジュールの中で、良いものを提供してくれるのかという観点は大きい。コンサルタント業は、元行政職員が多いものなのか。
C委員	一定数いるとは思う。
E委員	若手の職員でコンサルタント系の会社に転職する職員もいる。
C委員	担当者の構成については、デザインの専門家がA事業者にいるという点を評価したところである。B事業者にも、その点を聞いてみたいと思った。最近のコンサルタントは、デザインファームを自社で持つのがトレンドになっている。デザイン部門や事業者とどのような関わりになっているのか、分かりやすくビジョアライゼーションする感覚があるのかが重要だと思う。そのあたりのこだわりが、最後のアウトプットに関わってくる。
B委員	ビジュアルで見せることは、それが区民の理解度を高めるかどうかには懸念があるが、面白い手法だと思う。
C委員	各委員がおっしゃったように、A事業者が子ども向けに重点を置いている点は、私も同様に気になった。各事業者の説明で足りないものは、どの時点で補足説明してもらおうのか。
事務局	二次審査の前に、事業者への問い合わせや確認は行わない。補足が必要な場合は、二次審査の中で共通の質問事項を設けて質問をするか、個別で質問をするということになる。
C委員	承知した。視点の問題は、A事業者にどういった感覚があるかで大きく評価が変わってくるだろう。他分野への意欲や、実際の業務内容ではどこまで対応できるのかは、重要な評価点である。

B委員	子どもに特化している点が、A事業者の強みなのだろう。
C委員	A事業者は Well-Being を押し出しながらも、その中で重要な視点である医療や孤独という分野のボリュームが少ないことは気になった。 B事業者は、デザインの部分の能力が気がかりだ。
D委員	デザイン部分の質を向上させようとする、B事業者は他の事業者に委託するということになるのか。
C委員	自社で出来ない部分は、外注することになるだろう。ワークショップについても、業務によっては外注する場合があるだろう。
D委員	決められた範囲の中で、再委託することは問題ないと思うが、責任を持って業務を履行する意思は気になる。全体に関係することだが、コンサルタントに一任するのは良くない。計画等を作成する際に、コンサルタントが作成したものを自治体がそのまま受け入れてしまい、どこの自治体も同じような計画になっていることがよく指摘されている。どのように港区が係わっていくのか、そして、港区が積極的にイニシアチブを取り、事業者が提案やイメージをどのようにうまくコントロールしていくのかは、全体の構造として大切であると考えている。コンサルタントなどの専門的な方が多くいるのは結構だが、港区の要望も出していかなければいけないと考えている。
B委員	区の意向はどのように反映していくのか。
事務局	事業者へ委託はするが、ビジョンを策定するのはあくまで区である。事業者へ全てを任せるのではなく、常に連絡を取りながら、提案や確認をしていく。ご指摘いただいた、区がイニシアチブを取るという点は、意識して業務を進めていきたいと考える。
B委員	再委託はどこまで許容するのか。
事務局	再委託は、港区と協議のうえ、可能となっている。ただし、業務のメイン部分は、当然、委託事業者が履行することとなる。専門性の高い分野などについては、港区と協議のうえ、一部を再委託することが可能である。
B委員	承知した。
委員長	一次審査の評価点数については、この点数で決定し、2事業者とも二次審査

	に進むということで決定する。
	【3 第二次選考について】
委員長	次に、二次審査について事務局から説明をお願いします。
事務局	(二次選考について事務局から説明)
委員長	資料2及び資料3について修正すべき点があるか、また、全事業者への共通質問事項を設けるかどうかについて検討を行う。
B委員	まず、私から質問をさせていただきたい。 新たな配布資料はなく、スクリーンへの投影もなしということは、既に提出された資料のみでプレゼンテーションをするという認識でよろしいか。
事務局	ご認識のとおり、既に提出された企画提案書のみで説明をしていただく。
B委員	参加者は最大で何名か。
事務局	事業者への送付文書では、申込担当者1名、業務責任者1名は必ず出席、加えて、人数に制限はないが、プレゼンテーションに直接関わる人のみの参加可能としている。おそらく十数人が参加をすることはないと考えている。これまでも多くても3人ほどの出席であった。
B委員	複数人の参加があっても対応できるようにして欲しい。
事務局	承知した。
E委員	大門側のエレベーターからお帰りいただくように指定しているが、何か意図はあるのか。
事務局	2事業者が交錯しないよう、来庁と帰庁の導線を分けて案内している。
B委員	控室は別で用意しているのか。
事務局	控室は別で用意している。
委員長	共通質問を設けるかどうかについてはいかがか。何か事務局で案はあるか。

事務局	先ほど議論のあった子どもの視点に関連した質問は、両者に必要では。ご意見あれば事務局で案を作成して、委員に提示したいと考えている。
D委員	子どもに特化して注目するのか、多様な人たちの視点をどう捉えるのか、というスタンスは両者に聞いた方がいい。企画提案書をもとに発表すると、自分たちの強みを提案してくると思うが、抜け落ちてしまう部分がないよう、この点は質問した方が良く考える。
委員長	他には何かあるか。
事務局	先ほど議論のあった、デザイン部分を他の事業者に外注するのかどうかという点はどうか。
C委員	おそらく両者とも外注するだろう。そのため、どのような業者に外注するのか、事業者の中で誰が中心となって港区の意向をデザインし、区民の意見を反映していくのか。こうしたイメージを持っているかどうかは重要だと思う。加えて、マネジメントの方法についても確認が必要だ。
D委員	デザイン部分に限らず、他の業務も外注する可能性もある。
事務局	ご意見いただいたように、デザイン以外の部分もどのように委託するのかについて、共通質問案を作成し、ご提示したいと思う。整理して事前委員にお送りする。
委員長	それでは、共通の質問は2点とし、個別の質問は各委員から質問をすることとする。 以上で、議事は全て終了となるが、何か意見はあるか。
	(意見なし)
事務局	(第3回選考委員会について事務局から事務連絡)
	【4 閉会】